

1. 科目名 (単位数)	教育相談 (カウンセリングを含む) (中等) (2単位)	3. 科目番号	EDTS3106
2. 授業担当教員	荻原 邦昭		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	教育相談とは、幼稚園・小学校や中学校・高等学校など教育現場において、幼児・児童・生徒のこころの問題を扱うだけでなく、幼児・児童・生徒をとりまく保護者やさまざまな環境なども考慮しながら進められていく、教育現場における心理的な支援活動である。本講義ではカウンセリングを実践できるように演習を取り入れ、幼児・児童・生徒理解のために必要な知識・方法および実際の介入方法などについて、知識を深め実践力を身に付けることを目的とする。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.教育相談の意義と目的、内容と領域について理解し、説明することができるようになる。</li> <li>2.学校における教育相談の基本的視点、展開の方法について理解し、説明することができるようになる。</li> <li>3.教育相談を効果的に展開するため、枠組みとなる代表的なカウンセリングの理論と技術について理解し、説明することができるようになる。</li> <li>4.教育相談の治療的、予防的、開発的側面について理解し、説明することができるようになる。</li> </ol>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<b>【期末レポート課題】</b> 「望ましい教育相談 (カウンセリング) のあり方について考察せよ」 ※1, 000字から1, 200字程度で述べなさい。		
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> 指定しない。授業内で資料を配布する。 <b>【参考書】</b> 石川正一郎・藤井泰『エッセンス学校教育相談心理学』北大路書房 藤原和政・谷口弘一編『学校現場で役立つ教育相談』北大路書房 文部科学省『生徒指導提要』東洋館出版社		
11. 成績評価の規準と評価の方法	○成績評価の規準 1.教育相談に関する基礎的、基本的事項を理解し、説明できるか。 2.カウンセリングに関する理論や技術を理解し、対処できるようになっているか。 ○評価の方法 授業への積極的参加度、日常の学習状況、レポート等を総合して評価する。 1 積極的参加 (発言、討議、態度、シートの取り組み等) 総合点の50% 2 レポート (小論文、中間レポートを含む) 総合点の50% 上記の他に、本学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の取得条件であることも配慮する。		
12. 受講生へのメッセージ	本講義は教職のための資格科目であり、将来の教育者としての思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な理論、技能の獲得を目指している。この目的達成のため、受講者は次の事柄を遵守することを望む。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 常に高い緊張感と集中力を保って受講し、自己鍛錬を怠らない。</li> <li>2. 質問、発表を積極的に行い、主体性の形成に励む。</li> <li>3. 欠席、遅刻、早退をしないことで自己管理能力をつける。</li> <li>4. 勝手な退室や、講義に関係のない振る舞い、私語、居眠り、スマートフォンの操作などをせず、常にセルフモニタリングにつとめる。</li> </ol> なお、明らかに態度が悪いと判断された場合厳格な指導が行われる。その後も改善されない場合は全出席であってもF評価になることがある。 また教員は次のことを実行する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の目的を明確にし、シラバスに沿って講義する。</li> <li>2. 声の大きさや話し方など、受講者の聞きやすさ、わかりやすさについて配慮する。</li> <li>3. 討議や演習など受講者が積極的に講義に参加できる環境を作る。</li> <li>4. 受講者の質問には誠実に対応する。</li> <li>5. 受講者が上記のメッセージ1～4が守らない場合、厳格に対処する。</li> </ol>		
13. オフィスアワー	授業時間内に通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション、シラバスの確認 教育相談の定義、意義、形態、方法、学校における組織について把握する。	事前学習	シラバスを読んでおく。また、教育相談の意義について予習する。
		事後学習	授業内容について研究課題にまとめる。
第2回	教育相談の実際① 教師の行う相談活動の種類、学校現場の様子を話し合う。	事前学習	教師の行う相談活動はどうあるべきか、その考えをまとめておく。
		事後学習	授業内容について研究課題にまとめる。
第3回	教育相談の実際② 相談活動における連携のあり方、スクールカウンセラーの役割について理解する。	事前学習	連携とスクールカウンセラーの重要性について予習をする。
		事後学習	連携の必要性について研究課題にまとめる。
第4回	教育相談と生徒指導① いじめ問題の実情を知る。 いじめのメカニズムを知る。 いじめと教育相談を結び付ける事例をグループディスカッションで検討する。 いじめ問題のVTRを視聴し、感想を述べ合う。	事前学習	いじめについて説明できるようにしておく。
		事後学習	いじめの実態について研究課題にまとめる。

第5回	教育相談と生徒指導② 不登校問題の実情を知る。 不登校の原因、態様を知る。 不登校と教育相談を結び付ける事例をグループディスカッションで検討する。	事前学習	不登校と教育相談について予習をする。
		事後学習	不登校の新しい動きを研究課題にまとめる。
第6回	教育相談と生徒指導③ 特別支援教育について知る。 発達障害の実情を知る。 発達障害の種類と特徴を知る。 発達障害と教育相談を結び付ける事例をグループディスカッションで検討する。	事前学習	様々な発達障害の特徴について予習をする。
		事後学習	発達障害の支援などを研究課題にまとめる。
第7回	教育相談と生徒指導④ 非行・児童虐待の実情を知る。 非行の原因、児童虐待の種類を知る。 非行・児童虐待と教育相談を結び付ける事例をグループディスカッションで検討する。	事前学習	非行の動向、虐待の指導・支援について予習をする。
		事後学習	問題行動・児童虐待のとらえ方と支援などを研究課題にまとめる
第8回	カウンセリングの理論 開発カウンセリングのあり方を知る。 来談者中心療法について理解する。	事前学習	開発的カウンセリングの意味と来談者中心療法の意味について予習をする。
		事後学習	開発的カウンセリングの手法についてまとめる。
第9回	カウンセリング技法① 傾聴について理解する。 受容、支持、繰り返し、明確化、質問について知る。 DVDを視聴し、技法の実際の場面を学ぶ。	事前学習	傾聴技法について関連する書物を読んで、その意義について予習をする。
		事後学習	カウンセリング技法について研究課題にまとめる。
第10回	カウンセリング技法② DVDを視聴し、技法の実際の場面を学び、のち二人一組で演習する。 演習後に気づいたこと、感想を共有する。	事前学習	カウンセリング技法について日頃取り組んでいることを考える。
		事後学習	実際に演習したことの反省を研究課題にまとめる。
第11回	心理療法① 学校で活用できる行動療法として論理行動療法と認知行動療法について理解する。	事前学習	論理療法とは何か調べておく。
		事後学習	論理療法について研究課題にまとめる。
第12回	心理療法② 学校で活用できる精神分析とブリーフセラピーについて理解する。	事前学習	精神分析とブリーフセラピーの意味を調べておく。
		事後学習	精神分析とブリーフセラピーについて研究課題にまとめる。
第13回	アセスメントと心理検査 アセスメントについて知る。 アセスメントの対象、方法について理解する。 心理検査として、発達検査、知能検査、性格検査、適性検査の種類を理解する。 心理検査の効果と課題について知る。	事前学習	アセスメントと心理検査の必要性について予習をする。
		事後学習	アセスメントと心理検査を理解したことを研究課題にまとめる。
第14回	現代の子どもと保護者の理解 現代の子どもの様子と保護者の実態についてグループディスカッションする。 保護者支援のあり方について理解する。	事前学習	現代の子どもの特徴について調べておく。
		事後学習	子どもと保護者の様子について研究課題にまとめる。
第15回	事例によるカウンセリング演習 中学生の事例の検討	事前学習	教育相談の望ましいあり方を考えておく。
		事後学習	事例を通して対応を考え、研究課題にまとめる。